

千葉県高等学校教育研究会福祉教育部会

福祉教育部会報



ひとりひとりが輝く社会を～福祉教育の広がり可能性～

千葉県高等学校教育研究会福祉教育部会長 佐久間 敦子（千葉県立松戸向陽高等学校長）

教科「福祉」は、専門学科において開設される教科の一つであり、専門的な福祉従事者養成までを視野とした科目構成となっているが、それ以上に重要なことは、教科福祉の裾野を広くし国民的教養として人々がよりよく生きるための、すなわち「福祉」を追求し実現するための人間教育を根底においた教科である。（平成25年度第15回福祉教育研修講座 配布資料より）



道徳教育が必修となり、心の豊かさや人間教育の重要性が学力向上と共に期待されているところであるが、教科「福祉」は、道徳の目指すことを包含し、さらに実践的な学びができる教科領域だと考えている。私たちの生きていく社会が、誰にとっても住みやすく、生きやすい社会であるか、どのようにしたら実現できるか、このことを皆が考え協力すること、そして、それを体現する人間を育成することが教育の究極の目標

ではないかと考えている。

少子高齢化社会がすでに多くの課題を生み出しており、子育て支援・就労支援、高齢者介護、施設や人材不足も部分的な解決では収まらず、総合的な対応が必要である。そうした人材育成や社会のニーズの後押しもあり、千葉県では福祉人材の育成も含めた福祉コースが県内各地に設置されるプログラムが進んでいる。

即戦力になる介護の基礎資格を取得させることも重要であるが、一方で広く福祉を学び、大学や専門学校で様々な領域を学び、保育士や教員、看護師、理学療法士、社会福祉士等の福祉関連業種に就職する者もいてほしい。また、都市計画や制度設計、義肢などの福祉補助具、介護ロボットを開発研究する者が育つことも期待したい。医学の研究や、国際支援に尽力する若者がいても良い。

「福祉教育」の目指すものは広く、限りない。「福祉」は「未来」であり、「実現できる可能性」だと確信している。

福祉教育部会への期待

千葉県教育庁教育振興部指導課指導主事 大塚 真理子

少子高齢化が加速する中、高等学校の福祉教育には、とりわけ介護従事者等の人材育成に大きな期待が寄せられています。福祉に関わる職業教育の充実を図るため、県立松戸向陽高等学校には今年度から福祉教育拠点校としての役割も担って



ただいております。準備期間を含め、関係の皆様御尽力に心から感謝申し上げます。

福祉教育部会の加盟校は、専門教科「福祉」の科目設置校など、まだ限られておりますが、部会の行事・活動は年々充実していると認識しております。特に、公開授業や研修会等は、教育研究会の目的を果たすべく、教員の資質向上に大いに役立つと考えます。

今年度は、福祉関連高等学校生徒交流会の開催（8月）、埼玉県立誠和福祉高等学校を訪

問しての研修会（12月）など、活動の幅が一層増しております。また、部会ホームページが開設され、一般の方に高等学校の福祉教育について知っていただく機会が増えたことは大変喜ばしいことです。昨年度好評を得たリーフレットは、内容を新たに作成・配付していただきました。

来年度は、いよいよ長狭高等学校に医療・福祉コース、平成27年度は小見川高等学校に福祉コースが設置されます。「県立学校改革推進プラン・第2次実施プログラム（案）」では、平成29年度に佐倉西高等学校に福祉に関するコースを設置することになりました。福祉教育部会への期待もさらに高まっております。

結びに、福祉教育部会の運営に御尽力いただいております部会長の佐久間校長先生をはじめ、事務局の先生方に改めてお礼を申し上げますとともに、会員の皆様が相互に研鑽を積み、本県の福祉教育がますます充実することを期待しております。

福祉人材確保・定着フォーラム



平成25年11月20日(水)、幕張メッセ国際会議場で、「千葉県福祉人材確保・定着フォーラム」がおこなわれました。福祉・介護での人材確保に向けた取組の発表や、福祉系高等学校、専門学校、大学で学ぶ生徒・学生の取組についての発表、福祉の魅力についてのディスカッションなどがおこなわれ、会場に来ていた多くの参加者が、発表や意見交換を真剣に聴き入っていました。千葉県福祉人材センターfacebookに、そのときのようなすが掲載されています。



第一部では、高校生チーム、専門学校・大学生チーム、現役チームの3つに分かれ、それぞれの代表者により、「福祉の”みりょく”ってなんだろう！」をテーマにしたミニ鼎談がおこなわれました。高校生チームとして、県立松戸向陽高等学校福祉教養科3年生飯田真子さんが、代表で発表しました。スライドを用いながら、「わたしと福祉」というタイトルで、自分が福祉を学ぼうと思ったきっかけ、校外実習をとってお學んだこと、来春から福祉分野で働くにあたっての意気込みなど、福祉に

対する想いをハキハキと、また熱く語ってくれました。

第二部では、「福祉・介護の”魅力”ーヘルプマンは生活を支えるアーティストー」をテーマにした座談会がおこなわれ、県立松戸向陽高等学校清水教諭が、漫画「ヘルプマン！」の原作者くさか里樹さんたちとともにパネラーを務めました。ステージ上で交わされる活発な意見を聴くことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

第一部、二部ともに、生徒・学生の立場から、また実際に働く立場からと、様々な視点で、福祉に対する想いやエピソードが語られ、そして伝えられていました。今回参加した福祉系高等学校生徒も職員も、福祉を学ぶことについて、教えることについて、自分自身を振り返ることができ、福祉に携わる仕事のやりがいやすばらしさを再確認することのできた、とてもよい機会になったと思います。



第1回福祉教育部会研究会

平成25年11月29日（金）午後，県立松戸向陽高等学校を会場に，介護実習報告会がおこなわれ，県内各地から福祉教育部会加盟校の福祉科教員や管理職が出席しました。

県立松戸向陽高校福祉教養科生徒が全員出席しての報告会で，3年生代表者7名が報告をおこないました。実習でお世話になった施設職員の方にも多数出席していただきました。

全員がプレゼンテーションソフトを使用していましたが，どれもすばらしい発表内容だったと思います。講評でも，明尽苑施設長や福祉教育部会長から，充実した報告内容だったとのことばをいただきました。松戸向陽高校学科長からは，激励の意味も含めて，現状に満足することなく，今後も精一杯努力するようにとのメッセージが伝えられました。

このときに配布された「介護実習報告書」は，本部会ホームページに掲載してありますので，ご確認ください。



第2回福祉教育部会研究会

平成25年12月12日（木），県立松戸向陽高等学校で「福祉美容」の授業がおこなわれました。これは，2年生の「生活支援技術」でおこなわれたもので，昨年度に続き，2回目の実施となります。

講師は，山野美容専門学校からお招きしました。山野美容専門学校は，高齢者や身体障害者の方への美容が，生活の質の向上のために非常に重要な要素であることに着目し，機器の工夫や技術を開発し，「美容福祉」の視点で福祉に携わっています。

スライドで説明を受けた後，生徒たちは，髪の毛のカットと，シャンプー体験に挑戦しました。掃除機に取りつけた器具により，カットした髪の毛は即座に吸い込まれていきます。散らかる髪の毛に悩まされることがないため，寝たまの姿勢で整髪ができます。驚きをみせていた生徒たちは，次々に体験をしていきました。ベッド上でのシャンプー体験も，今後，福祉のスペシャリストとして羽ばたくであろう生徒たちにとって，とても有意義だったと思います。

講師の先生の説明は，わかりやすく説得力がありました。「プロ」と呼ぶにふさわしいと思います。お忙しい中，来校し，指導していただき，本当に感謝申し上げます。



加盟校の取組 県立勝浦若潮高校、県立松尾高校、木更津総合高校

県立勝浦若潮高等学校

勝浦若潮高校は千葉県の房総半島の南東部に位置しており、銚子漁港に次ぐ県内第2位の漁獲量を誇る勝浦港がある港町に面した学校です。総合学科の学校として文理、商業・観光、海洋科学、食品科学、生活福祉系列の5系列のなかから自分が魅力を感じた系列を2年次より選択し専門的な学習が始まります。1年次では5系列の授業に触れることができ、2年次以降の進路を自分で決めることができます。また生活福祉系列では多くの卒業生が地元の福祉施設へ就職しており、現在も福祉の人材を地域に輩出しています。

勝浦若潮高校では開放的な実習室と充実した実習設備や豊富な福祉用具を使い1人ひとり丁寧に3名の教員で指導します。「福祉」は高校へ入学し誰もが初めて学ぶ分野なので教員が生徒をフォローしながらペースに合わせて授業を進めていきます。

特徴としては、3年次の夏休みには今まで学んできた福祉や介護に関する学習の集大成として、近隣の福祉施設実習を4日間行います。また、自分たちで考えたレクリエーションの企画・運営をする機会があり実りある実習ができます。さらに様々な施設の特色や雰囲気を感じてもらうために年に4回施設訪問に行きます。施設実習の中で福祉に関わる仕事の大変さややりがいを見つけて少しでも将来の自分と照らし合わせてもらいたいと思います。

※勝浦若潮高校は平成27年度に近隣3校（大原・岬・勝浦若潮）と統合し、新たな校舎は（現）大原高校へ引っ越しとなります。（校名未定）

統合校においても総合学科は引き継がれ新築の福祉実習室と最新の福祉機器を導入して新たなスタートを切ります。未来へ羽ばたく中学生の皆さんを全力でサポートします！



県立松尾高等学校

松尾高等学校は九十九里浜を一望する高台にあり、明治42年6月の創立以来104年の伝統ある女子高校でしたが、平成18年度からは男女共学となりました。

本校は普通高校ですが、共学とともに福祉コースを設け、2年生からのコース選択では、文系コース・理系コース生活コース・ビジネスコース・福祉コースの5つのコースを設定しています。

福祉コースは、平成25年度の教育課程より福祉科の科目を増加し、校内において介護職員初任者研修を修了できるように整備をしています。



木更津総合高等学校

私たちは産まれてから、常にさまざまな福祉と関わりがあることを知っているのでしょうか？生きていく中でとても大切なものです。福祉＝介護ではありません。福祉は児童や障害者・高齢者との関わりを持つという、とても幅広い分野です。福祉を身近なものとして、自分自身や家族とどのように関わりがあるのかを詳しく学んでいきます。福祉で大切なのは、笑顔とコミュニケーション能力です。「明るく・楽しく・元気よく」をモットーに、これからの少子高齢社会を支える心を育てていきます。

